ールがあり、体の不自由（車椅子）な方も自由に移動、観賞できように配慮されていました。

二・三階部分は、情報学習（パソコン・インターネット・ゲーム・ビデオ音楽編集）を中心に創作室・学習室も備えられていて、また、一階部分に通路をかねて、ギャラリー部門も広くとられ、工夫されていました。

喫茶コーナーもあり、市民のいこいの場もありました。

午後は、「倉吉パークスウェア・未来中心」の見学です。

私は、この建物の名称が気に入りました。吹き抜け空間がある大規模な構造で、のびのびとして、この名称にぴったりです。

大ホールは、「二十世紀なし」をイメージさせる色調で統一され、落ち着いた感じがしました。小ホールは、オレンジ系で楽しくなりそうです。

私が印象深かったのは、操作一つで舞台の広さ（奥行き・幅）が自由に変えられ、どんな演出もできるようになっていたという事です。また、オーケストラゾーンも完備され、大変立派で、ただただ感動ばかりでした。

今回の見学に参加して思う事は、旧五町が合併したのを機にさぬき市にも発表の場として、市民が一同に集える市民会館が欲しいなあ、と思いました。そして、地域間の交流により、お互いの親睦をはかり、一層の絆を深め、楽しい豊かな人生が送れたらなあ、と思いました。

直島文化研修会に参加して

十河　博

県文化協会東讃地区文化協会の文化集会が、今年は直島文化協会の主催で、十一月二十三日に開催され、さぬき市文化協会より石原会長以下、各支部二名と事務局より佐伯・山本両氏が参加しました。午前八時に、高松のサンポートのフェリー乗り場に集合しました。待合所には、各地より参加者が集り、各所で再会を楽しむ人々の輪が出来ていました。当日は上天気に恵まれ一時間の船旅は、大変気持の良いものでした。直島宮ノ浦港には、直島文化協会の皆様が出迎えて下さり、手配して下さったバスに乗り、直島環境センターへ向いました。途中バスの中では、文化協会の方より島の説明を受け、今までは宇高連絡船で近くを通るだけの島でありましたが、今回の訪問で、歴史や現状を理解することによって、より身近な島に感じました。

▲直島の女文楽

環境センターは、全国的に有名に成った豊島の産業廃棄物を処理する為に、県が造った施設です。一部の悪徳業者のため、県民の税金が多く使われた事に憤りを感じます。しかしその施設は、現代の技術で無公害に処理し、その中より有効な物を取り出して社会に還元している事に感心しました。隣設する三菱マテリアル株式会社では、有価金属リサイクル施設を造り、廃自動車、廃家電その他家庭ゴミなどを処理して、有効な金属を取り出しています。現代はゴミの時代と云れていますが、これらの施設を見学して、改めて思い知らされました。

昼食後は、直島の誇る文化施設の一つ、地中美術館を見学しました。そのユニークさに驚きました。晩秋の山道を歩いて行くと、山腹に美術館の入口があり、一歩中に入ると迷路の様な建物が地中に広がっていました。展示室は、それぞれ個性のある部屋に、それに合った美術品が展示してありました。中でも、モネの水蓮の絵は圧巻でした。

最後は、直島女文楽を見学しました。とても素人とは思えない見事な演技に感心しました。

そして一日中お世話をして下さった直島文化協会の皆様に感謝をして、帰路につきました。

宮ノ浦港で船を待ってる時、瀬戸の海を染めて沈む秋の落日でした。我々はこの美しい自然を後世に残していく為にも、我々の今の生活を少し見直す時が来ていると思います。

旧長尾住民による災害チャリティ芸能

竹田豊子

申・酉・荒れて「戌ぬくい」と言う諺があります。過去を振り返るとそうばかりではありません。

大正十二年関東大震災は「亥年です。阪神淡路大震災も「亥年でした。平成十六年を一字で表わすなら「災」の字が選ばれました。人の善意につけこむ犯罪も横行した年でした。

年末にインドでは今まで、誰も経験した事もない程の大震災と津波に見舞われ、災害死傷者数十万人とも、二十万人とも言われています。天災を目の前にして、一人・一人の生き方と心の強さが問われているのでないでしょうか。ボランティア活動は、自分に出来る事で人様のお役に立ちたいと願いをこめて行なうものと思います。

長尾婦人会・男の料理教室・食生活長尾・青友会・草の根会の協力を中核に、文化協力長尾支部会員も心を一つにして災害チャリティに挑むため、助け合いの心で企画を立てました。

十二月十二日、一二・一二（ワンツウ・ワンツウ）の意気で頑張れと呼び掛けることにより、住民の参加を得ました。

芸能、作品展、バザーなどでした。午前九時三十分に開会・開演でした。昼休みもなく小学生・中学生、そして、寒川町楽団も応援にかけつけて下さいました。ありがとうございました。

こうした善意の人達の協力で合計金五十万円の収益をあげ、これを、さぬき市災害の義援金として送らせて頂きました。

この度はご協力頂き大変お疲れ様でした感謝申し上げます。

▲子供の三味線グループ